ほほえみセンターの課題と対応方針（第１層協議体・提言案）

【提言】

ほほえみセンターは、単なる「通いの場」ではなく、**介護予防と地域づくりの中核拠点として再定義**する必要がある。

持続的な活動とさらなる活性化を達成するために、以下の取り組みを一体的に進めることが重要である。

提案①　新規参加を促す広報・周知の強化
提案②　インセンティブ制度の導入による活性化
提案③　全ほほえみセンター参加型の活動の導入
提案④　外部組織との交流・連携の強化
提案⑤　持続可能な運営体制の構築

１　背景・現状認識

ほほえみセンターは、「介護予防」「生きがいづくり」の拠点として設置されているが、これまでの協議体会議の議論において、以下のような現状が確認されている。

- 利用者数はセンターごとにばらつきがあり、利用人数が少人数に留まっているセンターも存在している
- 活動内容のマンネリ化や利用者の固定化により、新規参加者が入りにくい状況がある
- 地域によって運営方法・意識に差があり、改善意欲にもばらつきがある
- 介護予防拠点としての機能が徐々に薄れてきている
- 管理運営員会やサポーターの高齢化・後継者不足が顕在化している
- 広報周知の不足により、地域住民や自治会長ですら存在を認識していないケースがある

２　主な課題

（１）利用者の固定化

- 常連中心の閉鎖的な運営となり、新規参入が困難であるため、利用者が増えない。
- 活動内容がマンネリ化しているため、魅力が低下している。特に比較的若い世代を引き付けられない。

（２）新規利用者の不足

- 周知不足と考えられる。特に自治会をはじめとする地域からの認知が不十分である。
- 参加する動機を生む仕掛けが不足している。
- 自動車が使えない、歩いていけないなど、交通手段・アクセスの問題も影響している。

（３）管理運営側の高齢化・担い手不足

- 管理運営者側の高齢化により、将来に不安が生じている。
- 利用者や運営者側の世代交代が進まず、組織の硬直化が生じている。
- 外部人材や若年層の関与が限定的であり、世代間交流や学生ボランティア等の活用が不足している。

３　基本的な方向性

今後のほほえみセンターのあり方や活動の方向性として、以下の方向で再構築する必要がある。

- 「閉じた居場所」から「開かれた地域拠点」へ転換を図る
- 介護予防機能を維持しつつ、地域内交流・多世代交流を強化
- 行政依存から「地域主体＋行政支援」へ移行
- 成果・参加状況を踏まえた運営体制の見直し

４　具体的提案

提案①　新規参加を促す広報・周知の強化（新規利用者の獲得）

〇取組内容

- 自治会長・民生委員等キーパーソンへの重点的周知
- 体験参加（お試し利用）の仕組み化
- 個別声かけ（伴走型支援）の実施
- 活動内容の見える化（広報紙・SNS・掲示板の利用など）

〇期待される効果

- 認知度向上による新規参加者の増加
- 地域全体での支援体制の強化

※自治会長の関与により利用者増につながった好事例があり、特に自治会との関係に留意する必要がある。

提案②　インセンティブ制度の導入による活性化

〇取組内容

- 利用者数・新規参加者数の増加に応じた委託費加算（インセンティブ）制度の創設
- 新規事業（講座・イベント等）への委託費の傾斜配分
- 成果指標の設定（例：参加率、活動回数）

〇期待される効果

- 運営側の意欲向上
- 活動の活性化・多様化
- 「やらされる事業」から「主体的運営」への転換

※これらは内規修正により対応可能であるが、現状において、委託費積算と利用実態に乖離があるとの指摘があり、留意する必要がある。

提案③　全ほほえみセンター参加型の活動の導入

〇取組内容

- 市内全センター参加型の対抗イベントの開催
  （例）グラウンド・ゴルフ、ボッチャ、卓球（ラージボール）などのニュースポーツ、またはカラオケ大会、健康マージャン、e スポーツなどの比較的若い高齢者向け事業への挑戦
- 年間イベントとして定例化することで、各センターの年間活動に組み入れる

〇期待される効果

- 参加意欲の向上（楽しさ・競争性）
- センター間交流の促進
- 新規参加のきっかけ創出

※協議体において「楽しい事業でなければ人は来ない」との意見あり

提案④　外部組織との交流・連携の強化

〇取組内容

- 子ども、学生、若年層との交流（スポーツ・イベント）
- 自治会や見守り隊などの地域内コミュニティとの連携
- 企業・商業施設等との連携（講座・出張サービス）
- シルバー人材センター、専門職の活用

〇期待される効果

- 新規層の取り込み
- 活動内容の高度化・多様化
- 担い手不足の補完

※企業等の外部資源との連携はこれまでも協議体で実施しており、効果が確認されている

提案⑤　持続可能な運営体制の構築（担い手対策）

〇取組内容

- 運営における複数人体制の制度化や団体等への事務委託
- 任期制・世代交代ルールの導入
- 生活支援コーディネーターによる人材マッチング
- 他組織（いきいきメイト等）の活用

〇期待される効果

- 持続可能な運営体制の確立
- 作業負担の分散
- 運営費の明示化
- 新しい発想の導入